広報ほんべつ

本別

いいひと いいまち いきいきほんべつ

HONBETSU

2020
January
No.1095
1月

2020

Pick up

- 新年のごあいさつ
- 新春・夢・希望
- 第7次本別町総合計画策定に向けたアンケート結果 Part 2
- 地域で見守る認知症！

新年のごあいさつ

本別町長
髙橋正夫
Masao Takahashi

新年あけましておめでとうございます。新たな希望を胸に、健やかな新年を迎えられたこととお喜び申し上げますとともに、日ごろより町政運営に特段のご理解とご協力をいただいておりますことに、心からお礼申し上げます。

昨年は、5月1日に元号が変わり、新しい「令和」の時代が幕を明けた年となりました。本町といたしましても、これまで過ごした明治、大正、昭和、平成の4つの時代を振り返りながら、まちづくりの原点を思い返し、より一層の発展に向けた新しい年としてまいりたいと思います。

その中にあって、昨年は台風などの自然災害が猛威を振るい、日本全国で多大な被害が発生しました。犠牲になられた方々やご遺族に対しまして、哀悼の意を表しますとともに、今なお避難等不自由な生活を余儀なくされていらっしゃる方々に心よりお見舞いを申し上げます。

基幹産業であります本町の農業につきましては、春は高温乾燥傾向、7月に入ると低温と日照不足など、不順な天候が続きましたが、降雨量が少なく管理作業も順調に行われ、その後の天候回復により、すべての作物において平年並みを確保することができ、また、酪農につきましては、畜産を含め、好調に推移したことは喜ばしいところであります。

このような中、国では、本町のみならず、北海道、日本農業の存続さえも大きく揺るがすような環太平洋連携協定、欧州連合との経済連携協定に続き、日米貿易協定が発効されるなど、憂慮すべき動きが続いています。

しかし、このような時だからこそ、私たちは、これからも、未来に大きな夢を託し、ふるさと本別はもとより、我が国が直面する課題に立ち向かいながら確実に克服し、歩み続ける所存であります。

昨年は、4月に本町の地域産業等の振興に必要な人材確保と本町への定着を目的とした施設である「本別町しごと体験交流館」がオープンし、町内における就労体験や研修などの環境が整ったことにより、人づくり、仕事づくりが本格的にスタートしました。更には幼児教育・保育の無償化もスタートしたことにより、より定住しやすいまちへと変革する年ともなりました。

今後も、町民の皆さまが想う、まちを元気にしたいという気持ちと時代のニーズを的確に捉え、さまざまな事業に対し積極的に取り組み、本町がさらなる飛躍を遂げる一年とする決意を新たにしたところです。

本年もこれまでと変わらぬご支援ご協力をいただきますようお願い申し上げるとともに、皆さまのご多幸とご健康を心からご祈念申し上げます。

【役　場】
町長　髙橋正夫
副町長　大和田　収

【町議会】
議長　高橋利勝
副議長　藤田直美
議員　阿保静夫
〃　方川一郎
〃　黒山久男
〃　山西二三夫
〃　大住啓一
〃　篠原義彦
〃　石山憲司
〃　梅村智秀
〃　柏崎秀行
〃　水谷令子

【教育委員会】
教育長　佐々木基裕
教育委員　布施耕一
〃　鈴木清志
〃　丑若理恵
〃　遠山倫子

【選挙管理委員会】
委員長　小林信雄
職務代理者　山下孔三
委員　天池二郎
〃　齊藤一成

【監査委員】
代表　畑山一洋
委員　方川一郎

本別町議会議長
高橋利勝
Toshikatsu Takahashi

新年あけましておめでとうございます。町民の皆さまには、清々しく希望に満ちた令和2年の新年を迎えられましたことを、議会を代表して心からお喜び申し上げます。

昨年は新天皇が即位され、時代が平成から令和へと新しい歴史の幕開けとなり、日本各地で祝賀ムードに包まれました。また、アジア初となるラグビーワールドカップが日本で開催され、新時代を歩みだし初めて迎える世界的なスポーツイベントとして、私たちに多くの感動と興奮を与えてくれました。日本代表チームの試合を通じて、国籍や人種を越えて多様性を認め合う共生社会を考える契機ともなったところです。

さて、日本経済に目を向けますと、昨年10月に、5年半ぶりに消費税が引き上げられました。増税後の消費は小売業では厳しい落ち込みが見られますが、ポイント還元や食料品の軽減税率適用により、総体的には増税の影響は限られた模様でありました。

また、今年の夏には、いよいよ東京オリンピック・パラリンピックが開幕します。日本代表選手の活躍はもちろん、五輪特需といわれる経済効果の期待と、オリンピック後も引き続き、好調が持続することを願うものです。

子育て支援では、消費税増税分の一部を財源として、幼児教育無償化が本町でも始まりました。家庭と地域、関係機関が一体となり、まち全体で子育てを支援する環境の充実が実感できるよう、今後も全力を尽くしてまいりたいと考えております。

昨年も残念ながら台風など自然災害が多数発生し、河川の氾濫や長期間におよぶ停電など、日本各地で災害に見舞われました。被災された方々にお見舞い申し上げますとともに、復旧・復興活動にあたられている皆さまに心から敬意を表します。今年は平穏で穏やかな1年となることを切に願い、町民の皆さまの命と財産を守るため、防災体制のさらなる充実を図る必要があると感じているところです。

本町の基幹産業であります農業につきましては、てん菜や馬鈴薯を中心に、全体的に概ね豊作基調となり、酪農や畜産についても引き続き好調を維持できたことに喜びを感じるところです。今後は、日米貿易協定が発効されることにより、農業をはじめさまざまな分野で影響がでないように国を中心に、万全の対策を望むところであります。

本町議会におきましても、二元代表制の一翼を担うものとして、まちの行政運営が効果的に発揮されるよう監視機能の責務を全うするとともに、議員個々のさらなる研鑽を積み、本町のまちづくりに、議員一同全力で取り組んでいく所存であります。

本年も皆さまにとりまして健やかで幸多い年となりますことをご祈念申し上げ、年頭のご挨拶といたします。

【公平委員会】
委員　大和田和盛
〃　矢野邦夫
〃　新津直子

【農業委員会】
会長　山西輝美
会長代理　荒木幸造
委員　佐々木幸一
〃　斎　等
〃　河野一紀
〃　牧田安史
〃　石山ひろのり
〃　荒　哲弘
〃　川初光章
〃　小坂好弘
〃　久常直樹
〃　齊藤一成
〃　中野康夫
〃　細田　昇
〃　風間　進

【固定資産評価審査委員会】
委員長　山下芳久
職務代理者　土藏啓一
委員　前田時男

【社会教育委員】
委員長　寺島康博
副委員長　志戸田由美子
委員　能祖美惠子
〃　沼田久枝
〃　小川末男
〃　吉田弘子
〃　沼澤圭亮
〃　本寺　誠

【本別消防団】
団長　伊藤英昭
副団長　三井孝寿
〃　矢野邦夫
本団部長　木下登美夫

ぼくたち わたしたち ねずみ年生まれ

2020年の干支はねずみ（子）。平成20（2008）年生まれで今年、年男、年女になる子供たちは中央小、勇足小、仙美里小合わせて50人。将来の夢、今年頑張りたいことなどを聞いてみました。（敬称略）

新春特集

新春 夢 希望

一人ひとりに個性があり、夢がある。
今の気持ちを忘れずに、
君だけのよさを輝かせよう！

勇足小学校

【5年生】

☆陸上の800メートルで2分30秒台を出すこと　井内櫻子
☆夢＝農家。父が農家をやっているから　石上心温
☆野球でホームランをたくさん打つこと　小島琉維
☆6年生になり最高学年になるので、1から5年生をひっぱっていきたい　武市かんな

【6年生】

☆数学をがんばりたい。理由は苦手だからです　杉山陽奈子
☆中学生になって少年団から部活動になるので、一生懸命やりたい　田野　響
☆夢＝保育士。子供たちとたくさん遊んで、ピアノの上手な先生になりたい　森住　葵

仙美里小学校

【5年生】

☆6年生の算数で問題をすらすら解きたいです　山田結衣

本別中央小学校

【5年生】

☆夢＝動物が好きなので、動物に関わる仕事がしたいです　阿部そよか
☆ピアノのコンクールでいい賞を取ることです　石川瑞桔
☆夢＝プロサッカー選手　内田　仁
☆野球で全国大会に行くこと　越後碧斗
☆クロールの50メートルで31秒を出したいです　遠藤一護
☆陸上の大会で1位を取りたい　小川祥生
☆夢＝子どもに関わる仕事がしたい　笠井陽仁
☆夢＝プロ野球選手になって活躍することです　加藤大翔
☆1年生から6年生までの漢字をすべて覚える　鎌田一輝
☆夢＝プロのドラマーか医者になりたい　久保穂乃花
☆陸上で全道大会に行く。スケート大会で決勝に残ること　今野健太郎
☆夢＝ダンサーになって韓国の大会に出ること　相樂莉子
☆夢＝サッカー選手になること　清實夏希
☆先生の話を聞いて勉強が遅れないようにがんばりたいです　佐々木凛佳
☆夢＝お父さんとお母さんと同じお菓子屋さんになりたいです　佐藤華香
☆ブラスアンサンブルコンクールで金賞を取りたい　佐藤真菜
☆吹奏楽のソロコンクールで優勝するか、団体で金賞を取って全道に行く　篠田優羽
☆1年生から6年生の漢字を覚えることです　鈴木脩互
☆夢＝保育士かお医者さん　鈴木日和子

☆夢＝英語検定で1級を取ること　富田果琳
☆夢＝柔道選手になってオリンピックで優勝したいです　中田雅玖
☆国語の漢字を覚える　中野颯士
☆野球で全道大会に行ったことがないから、全道大会に行く！　新津匠映
☆夢＝看護師かフライトナースになりたい　浜野華羽
☆夢＝スノーボードの選手になって優勝すること　半谷琉生
☆1年生から6年生の漢字をすべて覚える　真鍋知暉
☆ピアノの連弾コンクールで賞を取ること　門田茉桜
☆夢＝テニスの選手か保育士　弓削天翔
☆テストで100点を取るようにがんばる　吉田　黎
☆夢＝インターネットの会社を自分で作りたい　吉村一冴
☆夢＝プロ野球選手　渡邉瑛太
☆夢＝プロ野球のドラフトに3位以上で指名されたい　渡部泰丈

【6年生】

☆中学生になるので、難しい勉強も皆から遅れないようにすること　伊藤羽音
☆夢＝栄養士　塚谷美織
☆中学校の勉強についていけるよう家でも学校でも勉強をがんばる　塚田ちひろ
☆苦手な教科をがんばりたいです　東山裕紀
☆中学校に行ってもいろんなことにチャレンジし、勉強もがんばりたい　平田胡桃
☆中学生になったら勉強をがんばりたいです。その中でも国語や数学！　三川悠菜
☆夢＝サッカー選手　盛　康紀
☆夢＝料理人。料理で人を笑顔にしたい　木村琥太郎
☆優柔不断をなくすことと勉強をがんばりたいです　佐々木葵衣
☆夢＝パン屋の店長になりたいです　矢吹憂芽

成人おめでとうございます

令和2年 成人式・成人のつどい

とき　**令和2年1月12日(日) 午後1時**

ところ　**中央公民館大ホール**

内容
- 受付　午後0時30分
- 式典　午後1時
- 記念撮影　午後1時40分
- 成人のつどい　午後2時

問い合わせ　中央公民館内社会教育課 社会教育担当 ☎22－5111

式典は保護者や一般の人もご参観いただけますので、多くの町民の方々に20歳の門出を祝っていただきたいと思います

※写真は、平成31年成人式・成人のつどいのものです

国民年金コーナー その213

新成人の皆さん おめでとうございます 20歳になったら国民年金

日本国内に住む20歳以上60歳未満の全ての人は、国民年金への加入が義務付けられています。20歳になった時点で、厚生年金や共済年金に加入している人、またはその配偶者に扶養されている人以外は、第1号被保険者として国民年金保険料を納めなければなりません。

20歳になった人には、日本年金機構から、「国民年金加入のお知らせ」「国民年金保険料納付書」「国民年金の加入と保険料のご案内（パンフレット）」のほか、保険料の納付猶予制度と学生納付特例制度の申請書および返信用封筒が送付されます。

老後のためだけじゃない 公的年金制度

年金は「お年寄りのためのもの」と思いがちですが、実は若い人にも大切です。日本の公的年金制度は、老後の暮らしをはじめ、病気や事故などで障がいを負ったとき、または一家の働き手が亡くなったときに、みんなで暮らしを支え合うという社会保険の考え方でつくられた仕組みです。

保険料を納めないとどうなるの？

年をとったときや、障がいを負ったときに年金を受け取れなくなる場合があります。

保険料を納めることが経済的に難しいときは、本人の申請によって保険料の納付が免除または納付猶予される制度があります。また、学生の人には、申請により在学中の保険料の納付が猶予される学生納付特例制度がありますので、ご相談ください。

年金手帳は大切に保管しましょう

年金手帳は国民年金加入のお知らせとは別に送付されます。保険料の納付の確認や将来年金を請求するときに必要となりますので、大切に保管してください。

帯広年金事務所 ☎0155－25－8113
詳しくは住民課戸籍年金担当へ ☎22－8128
日本年金機構のホームページは https://www.nenkin.go.jp/

成人者名簿（50音順 敬称略）

成人者名簿は、町民みんなでお祝いすることを目的に掲載しています。該当される人は平成11年4月2日から平成12年4月1日までに生まれた方々です。該当者で、ここにお名前が載っていない、本別町に住民登録のない場合でも式典にご参加いただけます。

阿部　紘尚
荒井　香里
飯居　宇孝
飯山　祐弥
イエドゥりんクリスティーナ
池田　創太
石原　あすか
石森　愁斗
市川　陽
市橋　明日香
井上　翔貴
今多　渉
印牧　美穂
丑若　雄太
大澤　然
太田　龍聖
大平　宗太朗
大村　亜子
岡本　行生
奥山　浩之介
鬼塚　樹
貝瀬　友哉
方川　桐也
加藤　滉己
苅田　大地
川又　颯太郎
小出　雄大
合田　萌
小林　龍祈
榊　大慶
坂本　剛
櫻井　晴輝
佐々木　俊祐
佐々木　大地
佐藤　衣玖
佐藤　樺純
佐藤　協伍
佐藤　達実
佐藤　輝之
佐藤　晴哉
佐藤　未弥
篠江　拓夢
篠田　亜美
島次　智也
清水　竜也
珠玖　裕介
白木　佑芽佳
城浦　教祐
関　虎ノ介
高橋　昌也
高橋　美紀
髙橋　侑希
武井　涼
竹内　大和
田中　緒人
中條　愛悠
塚田　匠
寺脇　純哉
道見　祥樹
富田　綾盛
豊田　いつき
内藤　千恵子
中川　葉月
中川　涼稀
中島　陸
中前　友弥子
中村　亜依
中屋敷　翔
成田　友美
西村　明莉
野崎　将秀
野村　竜也
羽生　慶斗
林　恭輝
原田　拓実
東山　優斗
廣瀬　望乃
福地　一貴
藤沢　海地
藤田　快土
藤原　桃香
渕上　恵以
前田　拳心
松村　亮治
松本　慧吾
水野　楓
宮本　優姫
村上　慈恩
村田　隼樹
森　陽成
八木　翔平
矢野　悟天
山口　晴夏
吉田　和希
吉田　航大
吉田　千花

第7次本別町総合計画策定に向けたアンケート結果について Part 2

町では、第7次総合計画策定に向けて町民の無作為抽出による1000人および町内の中学生・本別高校生の全員にアンケート調査を実施しました。
今回は、広報ほんべつの前号に引き続きアンケートの結果についてお知らせします。

アンケート回答結果

**Q 本別町がどんなまちになることを望みますか。
あなたの考えに最も近いものを次の中から〔3つ以内〕選んでください。**
（町民アンケート回答者 384人）

① 農業や工業、商業などの産業が盛んなまち	182件
② 観光資源を活かし観光客があふれるまち	51件
③ 道路、下水道など都市基盤が整備されたまち	59件
④ 緑や花、公園を大切にする快適なまち	44件
⑤ まち並みが美しく良好な景観が形成されたまち	47件
⑥ 防災対策が推進され、犯罪が少なく治安のよい安心なまち	137件
⑦ 高齢者や障がい者にやさしい福祉のまち	153件
⑧ 出産や子育てがしやすいまち	127件
⑨ いつでも安心して医療が受けられるなど、健康づくりに積極的なまち	185件
⑩ 教育環境の充実したまち	42件
⑪ 芸術・文化の充実、スポーツ・レクリエーションが盛んなまち	12件
⑫ その他	8件
無回答	11件
計	1,058件

この質問の回答では、「⑨いつでも安心して医療が受けられるなど、健康づくりに積極的なまち」「①農業や工業、商業などの産業が盛んなまち」「⑦高齢者や障がい者にやさしい福祉のまち」「⑥防災対策が推進され、犯罪が少なく治安のよい安心なまち」「⑧出産や子育てがしやすいまち」を多くの人が望んでいます。

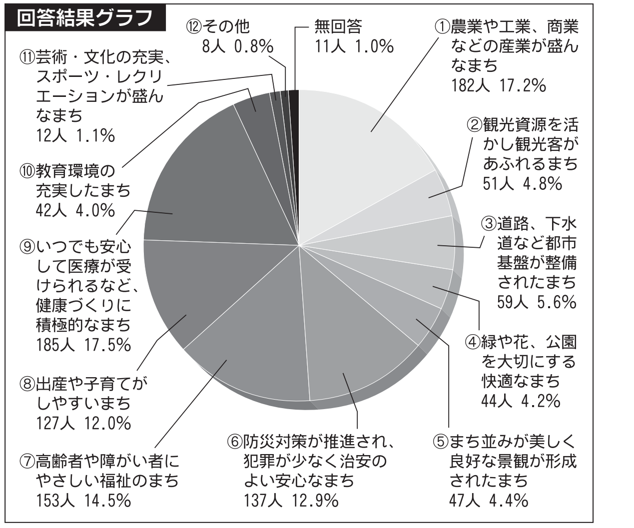
このことは、誰もが健康で元気に働いたり、活動することができて、安全・安心なまちで、子どもから高齢者までがいきいきと、基本的な生活が営めることが大切であるということだと思います。

また、自由記載欄には、これらに関する町民の皆さんの思いが詳しく書かれています。他にも貴重なご意見や、まちづくりを進めて行くために参考となるアイディアやご提案をたくさんお寄せいただいています。

このアンケート結果の内容については、すでに役場各課・部局において周知徹底を図り、今後の事業実施にあたり参考とし、業務の改善に向けた資料として活用させていただいています。

アンケート調査の全ての結果については町ホームページで公表していますので、ご覧ください。なお、紙に印刷したものも用意しておりますので、お申し出ください。

アンケートを全ての人にお願いしていないこともあり、まちづくりへのご意見をお寄せいただける人は役場企画振興課までご連絡をいただきますよう、お願いします。



第3回 地域づくりセミナーを開催

新総合計画策定に向けた、本別の「魅力」をまちづくりに活かしつなげていくことを考える「第3回地域づくりセミナー」を12月4日、町体育館で開催し、17人が参加しました。

今回のセミナーでは、参加者たちがワークショップ形式でこれまで同セミナーで議論されてきた意見を集約し、具体的なプロジェクトにするためグループごとで話し合い、意見発表を行いました。

〈自然の里〉班
【マッチングー・プロジェクト】

町の中心地の空き家を活用し、皆で世代間交流のできるフロアを作る。子供たちやおじいちゃん、おばあちゃんだけでなく、高校生が中学生、小学生に勉強を教えたり、一緒に遊ぶことなどができたらと考えた。おじいさんやおばあさんは、今の遊びを知らない。反対に今の子どもは、昔の遊びを知らない。お互いに教え合って、一緒に遊べたら楽しいのでは。

そのためには商工会や建設業界、農業協同組合等あらゆる協力も必要。いつでも誰でも皆が集まれる場所をつくりたい。

〈ALL本別〉班
【空き家はあきないやぁ】

空き家の活用を考えてみた。一つ目はスポーツ合宿の宿泊場所、研修場所として、主に夏と冬に使用する。冬の合宿は栄養を学び、体を作ることを目的に豆のタンパク質を活かすことを学習する。夏はトレーニングに適した場所や施設が多くあり、晴れの日が多いので、スポーツ合宿には適している。

春と秋には起業したい人向けに住宅を貸し出して、本別の良さや利点を発見して発信してもらう。

年間を通じては企業が保養の場として利用する。社員が家族とともに本別公園などの自然との触れ合いから本別のファンになってもらう。また、小学生から高校生と町民が交流できる場とする。本別の良さを大人が講師になって伝えていく。帯広や札幌にも負けないものがある、本別愛を育むための拠点にしていきたい。

まちづくりセミナーワークショップに携わっていただいた皆さん

〈本別大好き〉班
【ワクワクドキドキ本別公園】

本別公園を核に、資源を活かすこととした。まず、農産品。豆はどこででも作っているが、「豆のまち」と銘打っているのは本別だけ。また、基幹産業である農業と、それを加工する明治や北糖といった大きな企業もある。

昨年のブラックアウトの時に星空がきれいなことを再発見した。本別公園なら満天の星空を楽しめる。また、寒さを体験してもらうこともあっても良いかもしれない。本別沢には野鳥も多い、ゴーカートやボートもある。キャンプ場や宿泊施設を整備することで、一日中楽しく遊べるようになれば、子供たちがまた来たいという場所になる。その管理に高齢者が携われば、健康増進にもつながる。

将来的に高速道路が釧路、北見につながれば、本別は札幌方面からの人・物の輸送や観光の拠点となる。これを大いに活用して人の賑わいの創出を図っていく。

〈豆大～好き♡〉班
【ヘルスビーンズ プロジェクト】

本別公園の周辺を活用して、豆製品を製造できる工場や豆の加工場を作り、食べる、遊ぶ、買うなどの交流の場とする。また、幽仙峡、屏風岩、星空、温泉などを活用して体験型交流の場としていく。これらがつながって若者の雇用の場となれば、人口の流出も防げる。

さらに長期滞在体験型にするため、御所や空き家、シェアハウスなどを整備して安い料金で利用できるようにする。そこが若者の交流の場、出会いの場につながっていく。また、テレワーク環境の整備やレンタル畑を提供することも考えてみた。

〈講師 大山慎介氏 講評〉

課題認識と近未来展望という地に足がついたプロジェクトになっている。すぐには難しくても5年後までには実現可能なことが多い。

高速道路の整備がされれば、3つの空港が使える。特急列車にも1時間で乗れる。星空がきれい、本別公園が整備されている。本別の人には何気ないことかもしれないが、都会の人が、何を求めているか、どこに価値を感じるかを直接触れ合い、知ることによって、本別の存在価値を高めることができる。

都会の人と本別の人、双方が嬉しくなることを基本にすることが重要です。

**この件に対するご意見等は
企画振興課
企画・生涯学習・行政改革担当
☎22－8121まで**

第3次本別町母子保健計画（案）を作成しました

近年の核家族化や地域のつながりの希薄化などにより、育児中の母親や子どもの発育を地域ぐるみで支えていく必要性が高まっています。町では、安心して子どもを産み育てられる環境を作り、効率的な母子保健の推進を図るため「第3次本別町母子保健計画（案）」（令和2年4月～令和7年3月までの5ヵ年計画）を作成しましたのでお知らせいたします。

母子保健は、生涯を通じた健康の出発点であり、次世代を健やかに育てるための基盤となるものです。

近年、少子化の進行、核家族化、育児の孤立化など、母子保健を取り巻く状況には大きな変化が見られており、「妊娠から出産、子育てまでの切れ目ない支援」が求められています。そのため、安心して子どもを産み、子どもがより健やかに育まれるために、母子保健に携わる町内各学校養護教諭や育児中の母親などを構成員とした策定委員会を設置し、意見交換を重ねました。その中で、第2次本別町母子保健計画（平成28年4月～令和2年3月）の検証を行い、国の「健やか親子21（第2次）」（平成27年4月～令和7年3月）に示された課題や直近のデータを踏まえて、第3次本別町母子保健計画（案）を策定しました。

国の健やか親子21（第2次）のイメージ図

計画実施に当たっての評価指標（目標）※抜粋

●気持ちやからだの調子が良い母の割合
…… 4ヵ月 71.5％ → 現状以上
…… 1.6ヵ月 68.6％ → 現状以上
…… 3歳 85.3％ → 現状以上

●周囲の協力者が得られている人の割合
…… 4ヵ月 97.1％ → 95％以上
…… 1.6ヵ月 94.3％ → 95％以上
…… 3歳 100％ → 95％以上

●朝食を毎日食べている人の増加（小中校生）
…… 小6 91.2％ → 90％以上
…… 中3 70.7％ → 90％以上

●育てにくさを感じた時に対処できる親の割合
…… 4ヵ月 83.3％ → 90％以上
…… 1.6ヵ月 83.3％ → 90％以上
…… 3歳 92.9％ → 90％以上

●育児の相談者がいる人の割合
…… 4ヵ月 100％ → 95％以上
…… 1.6ヵ月 94.3％ → 95％以上
…… 3歳 97.1％ → 95％以上

計画の取り組みの内容（具体的な政策）※抜粋

- ●母子手帳交付時の面接による相談
- ●産後ケアクラス
- ●育児相談（電話・来所）
- ●こころのほっと相談（心理カウンセラーによる相談事業）
- ●乳幼児健康診査
- ●新生児訪問
- ●思春期保健連絡協議会
- ●SNS等の啓蒙
- ●生（性）教育
- ●保育所・こども園・学校等、関係機関との連携
- ●広報紙やホームページによる情報提供

★第3次本別町母子保健計画の概要図★

基本理念
皆のやさしさに包まれて すべての親がいきいき笑顔で過ごせるまち

基本方向
- 妊娠・出産・育児期を通し、心身ともに健康に過ごし、育児をすることができる環境づくりを目指します
- 心身の変化を理解し、健やかで自分らしい思春期を迎えられる体制作りを目指します
- 育てにくさを感じながらも関わり方を知り、周囲の協力を得ながら子育てできる環境・体制づくりを目指します
- 不安や悩みを抱え込まず孤立することなく子育てができる環境づくりを目指します

一人ひとりががんばること
- ◆ストレスは抱え込まずに、相談できる人や場所を見つけ活用します
- ◆自分の身体にも関心を持ち、健康な心身を維持します
- ◆スマホ、ネットの長時間使用に注意します
- ◆親は子どもの様子で気になることがあれば周囲に相談します
- ◆子どもの発達特性を理解し、心配事はひとりで溜め込まず保健師や保育士に相談します
- ◆地域で困った親子がいた時には声をかけます
- ◆子育てに悩んだら、一人で抱え込まず、家族や友人、相談機関に相談します

町や関係機関等の取り組み
- ◆保健師による支援の充実（産後ケアクラス、育児相談、乳幼児健診など）
- ◆交流できる場の提供（すこやかルーム、支援センターリフレッシュ講座）
- ◆スマホ等の長時間使用による健康問題について周知
- ◆子育て世代包括支援センターの周知
- ◆乳幼児健診の充実
- ◆療育支援における関係機関との連携
- ◆相談体制の整備、相談場所の周知
- ◆保健師による支援の充実（たまご教室、乳幼児健診など）
- ◆虐待における関係機関との連携

★皆さんの意見を募集します！

第3次母子保健計画の策定にあたり、広く皆さんからのご意見（パブリックコメント）を募集します。計画案の全文は、町ホームページのほか、健康管理センターや子育て支援センターほんべつでもご覧になることができます。

▶意見を提出できる人 町内に住民登録をしている人
▶募集期間 令和2年1月31日（金）まで
▶提出方法 町ホームページおよび健康管理センター、子育て支援センターほんべつに設置している所定の様式に記入し、健康管理センター、子育て支援センターほんべつの窓口、または郵送、FAX、Eメールでの提出
▶意見提出先
・〒089-3334 本別町北6丁目11番地4 本別町健康管理センター FAX 22−2016
　Eメール kenkok@town.honbetsu.hokkaido.jp
・〒089-3314 子育て支援センターほんべつ FAX 22−2509
　Eメール nakayoshi@f1.octv.ne.jp

※住所、氏名（法人・団体名）は必ずご記入ください
※匿名のご意見は受け付けることはできません（意見提出者の住所、氏名を公表することはありません）

問い合わせ 本別町健康管理センター ☎22−2219

地域で見守る認知症！

「もの忘れ散歩のできるまち　ほんべつ」を目指して

認知症は年をとれば誰にでも起こる可能性がある病気です。しかし、認知症についての誤解や知識不足から、本人も周囲もつらい思いをしていることが少なくありません。認知症の症状と、その症状が現れる理由を正しく理解し、認知症の人と上手に関わり合いながらいろいろな制度を活用し、お互いが安心して暮らしていける社会を目指しましょう。

認知症は怖い病気？

全国では65歳以上の高齢者の15％が認知症と推計されています。本町の地域包括支援センターでは年間1000件ほどの介護や介護サービスに関する相談を受けていますが、最近は認知症を起因とした相談が100件以上を占めています。その内容としては、「買い物の支払いに手間取っていた」「通帳や保険証の管理ができなくなった」「入浴や着替えを嫌がる」、また「車を運転しており不安」「徘徊するようになり受診させたいがどうしたらいいのか」等々と多岐にわたって心配ごとや悩みが寄せられています。

認知症は種類や程度によっては治療薬があり、早期に適切な治療とケアを始めることで、ある程度進行を抑えたり、症状を改善することができます。また、周囲の人の接し方で進行や症状は大きく変わります。

超高齢社会である現代社会は、誰もが認知症になるか認知症の人と接することになる社会です。認知症への理解を深めて、適切に対処できるようにしましょう。

認知症の症状

ついさっきのことを忘れる、時間や場所・人物を認識できなくなる、考えるスピードが遅くなる、身の回りのことや料理ができなくなるなどの症状は、脳細胞の減少が原因で起こるものであり、どのタイプの認知症にもみられます。

一方で、暴言や暴力、徘徊、不潔行為、多弁・多動などの症状は、初期段階の症状に対する不安やあせり、心身の不調、本人の性格、周囲の適切でない対応などが影響して起こるものです。

しかし、本人は自覚できないことも多く、周囲も「まさか…」と思いがちなため、発見が遅れてしまうことがあります。なるべく早く気づくためにも、認知症の症状について知っておくことが大切です。

認知症には適切な対応が大切です

本人の気持ちに寄り添い、接することで認知症の進行が抑えられ、介護者の負担も軽くなります。理想は、認知症の人も介護する人も、ストレスを減らして気持ちよくなれること。次の7か条を参考に、認知症の人のケアを心掛けましょう。

認知症の人を中心としたケアの7か条

① 安心感を与える
② 普通の人と同じように接し、人間として尊重する
③ プライドを傷つけない
④ 失敗を責めない
⑤ 教えようとしない
⑥ 訴えを頭ごなしに否定しない
⑦ 短く簡潔な言い方をする

認知症のケアは地域ぐるみで！

認知症状の対応は介護のプロなどでも困難なことが多く、これが正解というものはありません。家族あるいは一人だけで介護の悩みを抱え込まず、地域の人たちの見守りや公的支援などを通して、地域ぐるみで認知症の人やその家族を支える時代です。

介護している家族を支えるサービスとしては、町内では「やすらぎ支援事業」や「在宅介護者を支える会」の活動などがあります。また、「認知症カフェ」や「認知症サポーター養成講座」など、認知症の理解を深めるための事業も展開しています。詳しくは地域包括支援センターにお問い合わせください。

♡♡町内の各所で認知症カフェ（オレンジカフェ）を開催しています

認知症カフェは「認知症の人やその家族が地域の人や専門家と相互に情報を共有し、お互いを理解し合う場」です。

本別町では今年度も3カ所の小規模多機能事業所（清流の里、陽だまりの里、ゆうあいの里）で開催しています。内容は、医師による認知症の講話、認知症予防体操、うどん作り、ギター演奏、お茶やお菓子を囲んでの交流などさまざまです。

認知症カフェに参加した人へのアンケート結果では、参加動機として多く挙げられていたのは、①認知症に興味があったから、②自分が認知症になったらと不安になることがあるから、③知人や友人に誘われたから、などが多く見られました。

認知症について学びたい人はもちろん、多くの家族の皆さんや地域の人が気軽に集まって、認知症についての理解を深め、ゆったりとした時間を過ごすことができるような企画を考えています。

※今後の認知症カフェの予定

- **2月（日程未定）**
  清流の里オレンジカフェ
  場所：あいの里交流センター
- **3月20日（金）**
  陽だまりオレンジカフェ
  場所：陽だまりの里
  ・郡山医師による認知症講話他

清流の里オレンジカフェ（令和元年11月）

ゆうあいオレンジカフェ（令和元年７月）

あなたも認知症サポーターになりませんか？

認知症サポーター養成講座
（役場職員対象・令和元年11月）

認知症サポーターは、認知症について正しい知識を持ち、地域や職場で、認知症の人や家族を応援し、誰もが暮らしやすい地域を作っていくボランティアです。

何か特別なことをする人ではなく、認知症の人やその家族を応援する人です。本別町では2005年より養成を開始し、2019年３月までに1,280人が受講しています。毎年、本別中央小学校４年生と勇足中学校２年生を対象に実施しているほか、自治会福祉部や職域などで養成講座を行っています。

日常業務の中で、認知症の人やその家族と接することが多い職場の人、地域の人はぜひ、認知症サポーターになりませんか？

認知症や介護のご相談は、地域包括支援センターに！

地域包括支援センターは、健康や介護、財産や権利など、高齢者を総合的に支援するための拠点です。主任ケアマネージャー、保健師、社会福祉士などが中心となりチームで活動しています。

高齢者本人からだけでなく、家族や近隣に暮らす人からも相談を受け付けています。「家族の物忘れに気づいた」「お隣さんが認知症かもしれない」そんなときは、まずご相談ください。

相談および問い合わせ
本別町地域包括支援センター
本別町西美里別６-15　総合ケアセンター内　☎22－9222

令和元年度 障がい者週間 記念事業

チャレンジド・ネットワークほんべつ（土本直美会長）が主催する「障がい者週間記念事業」が11月30日、「障がいがあっても暮らせるまちづくりとは」をテーマに中央公民館で開催されました。

手作り品の販売

受付けの様子

開会で土本会長が「障がいを持つ人が地域で安心して暮らせるために、発達障害を紹介した動画を作成しましたので見ていただけたらうれしいです」とあいさつ。会場では、加盟する6団体1個人が、カレーライス、アイスクリームやクレープなどの食べ物や、手作り小物などを販売したほか、作品展示や機織り、工作などの体験コーナーの出店がありました。

午後からの発達障がいを考える啓発事業では、チャレンジド・ネットワークほんべつの羽賀健一副会長が、「個性　それが大事」というテーマで、同会自作の動画を使って、発達障がいの種類と主な症状、周りはどう対処したらよいかなどの話をしました。「お風呂見てきてと言われ、言われた通りに見てきたのになぜしかられるのか？」などを例に上げ、その場合の対処方法として、浴そうに目印を付け、そこまで水が来たら止めるなど具体的な事例を交えて説明しました。羽賀副会長は、地域の方々へのお願いとして、「発達障がいへの理解と協力を」と会場の約150人の参加者に呼びかけました。

土本会長の開会あいさつ

熱心に動画を見る参加者

手作り動画を紹介する羽賀副会長

にぎわったバザーコーナー

縁日・工作コーナー

機織り体験コーナー

本のまち夢づくり講演会

読書の秋を締めくくるイベント「本のまち夢づくり講演会」（町教育委員会・主催）が11月30日、町体育館中競技室で開催されました。本別町出身の絵本作家きくちちきさんが、穏やかな口調で聞き手とのトークセッションを展開。絵本作家となったきっかけや創作秘話などを語りました。その後、即興で大きな絵を描くライブペイントが行われ、町内外からの来場者約100人は、きくちさんの大胆な筆づかいと、作品が出来上がっていく過程に見入っていました。

講師
きくち ちき さん

ふるさと本別で初めてのイベント

最新作『しろとくろ』の読み聞かせも

聞き手と笑いを交えながら

トークセッション「ぼくから100年先への手紙」

◆どんな子どもでした？

きくちちきさんは44歳。本別町で生まれ、帯広で中学校、高校を卒業されました。「本別は祖父母の家に遊びに来た記憶があり、なんとなく懐かしい」と、数十年ぶりの町の印象を話してくれました。また、小さい頃から絵を描くのが好きでしたが、それを知られるのが気恥ずかしく、こそこそとモネの絵を模写したり、仏像や面をスケッチしたりする子で、「帯広の実家の仏壇には、僕の作った粘土の仏像が今でも飾ってありますよ」と、ユニークなエピソードを明かしました。

◆絵本作家って？

大学卒業後、印刷デザインの仕事に就きましたが、その後転職を繰り返すことに。そんな時、骨董市で100年前の美しい外国製の絵本と出会い、衝撃を受けたきくちさん。「絵本ってすごい！僕も絵本を作らなきゃ」と思い立ち、ひたすら絵を描くようになったと言います。人との縁にも恵まれ、2012年に作家デビュー。最初の作品が国際的な原画展で受賞し、一躍注目されるようになりました。

「これだ！」と思えるまで、とにかく描き直すタイプ。1冊の絵本のために千枚描いたこともあるそうです。絵とともに文もどんどん変わっていくので「実は編集者泣かせ」と話してくれました。

また、「息子の言葉や動きがそのまま絵本のヒントになる」という、優しいお父さんでもあります。

◆本別の子どもたちにメッセージを

「好きなことを仕事にできるのはとても幸せなこと。周りを気にせず、自分がいいなと思うものを大切にしてください」

ライブペイント「うまれる絵たち」

大きな画用紙に、まずは墨汁でネコの輪郭を描き始めたきくちさん。刷毛や筆を使い分け、次々と動物や草木を描いていきます。間近で見ている子どもたちが「ゾウさん！」「キリンがいい！」と言うと、きくちさんはにっこり笑って手早く描き足します。画材は他に赤・黄・青の水彩絵の具だけ。大小さまざまな動物たちがいきいきと描かれた作品が完成すると、会場から大きな歓声が起こりました。

この世界に1枚の作品は、図書館1階に飾られています。

作品タイトル「ゆき」（サイズ110㎝×230㎝）

ほんべつ 学びフェスタ 2019

ボッチャ体験会

下の句かるた大会

ほんべつ学びフェスタ（実行委員会等主催）が12月７日、中央公民館で開催され、町民や教育関係者ら約250人が来場しました。

～みんなで考えよう、まちのこと、家族のこと～

伝統文化子どもお茶席

イベント会場の二階には、子供たちの作品や各学校・町教育委員会事業の写真などがパネル展示されたほか、「だがしや楽校」では小学生が、だがしやの店員に扮してお仕事体験をしたり、本別高校理科実験プロジェクト実験講座と本別高校＆サイエンスクラブ理科実験コーナーにおいては、子供たちを相手にあい染めや人工イクラを作る講座を高校生自らが先生になり行いました。三階大ホールは、初開催の「防災・減災体験学習コーナー」をはじめ、パラリンピック種目「ボッチャ」体験会、伝統文化子どもお茶席など多彩な催しが開催されました。またランチバザーでは、本別高校生考案のバターチキンカレーが大好評でした。

午後からは、下の句かるた大会が行われ、子どもから大人までが参加し、白熱した勝負が繰り広げられました。

一日を通してさまざまな催しが開催され、このイベントの目的である「家庭・学校・地域が融合し、大人と子どもが一緒になって日々学ぶことの大切さを実感する」ことができたイベントとなりました。

本高生考案！バターチキンカレー

だがしや楽校

本別高校&サイエンスクラブ理科実験コーナー

本別高校理科教育プロジェクトあい染体験

防災・減災体験学習コーナー

各学校の手作りページ

HELLO 本別中央小学校

学校教育目標

自らを高めようとする子ども
考える子
助け合う子
がんばる子

今年度、全校児童198人でスタートした本別中央小学校ですが、広報ほんべつ６月号でもお伝えしました通り、今年で開校50周年を迎え、これまでさまざまな記念事業に取り組んできました。また新たな半世紀に向かう本校ですが、いつの時代も子供たちが安心して元気に通える学校を目指し、家庭・地域と連携して教育活動に取り組んでいきます。

開校50周年記念 学習発表会 10月20日（日）

今年の学習発表会のスローガン、「ステージから笑顔と感動をとどけよう」のもと、全校児童が全力で取り組みました。１年生から６年生までそれぞれが互いに力を合わせ、最高の舞台を創り上げることができました。

本別中央小学校 開校50周年記念式典 11月10日（日）

約300人が集い、開校50周年の節目を祝いました。開校50周年を祝う会今野雅徳会長の式辞で始まった式典は、児童代表の作文発表や全校合唱など、子供たちの活躍が光るすばらしい式典となりました。

開校50周年記念事業「チャレンジゲーム」 12月3日～5日

記念事業の一つとして事業部（山岡裕幸、中野若菜両部長）が企画し、保護者の協力を得ながら実施しました。８つのゲームに子供たちがチャレンジ。終了後は、だがしや楽校でおなじみのだがしが渡されました。

マチかどほんべつ

小学校入学準備を整える　11/15

令和２年４月に町内の各小学校に入学予定の幼児35人を対象にした新入学児童健康診断が11月15日、町体育館で行われました。幼児たちは、保護者に手を引かれながら、身長や体重測定、内科検診、歯科検診のほか、視力や聴力の検査を元気よく受け、小学校入学への準備を整えました。

初冬の夜のイベントを楽しむ　11/20

第９回はしご酒ナイト（実行委員会主催）が11月20日、町内18飲食店で行われました。最初に、アースホールで受け付け、抽選会を行った後、220人の参加者たちは、４～５人のグループに分かれ、それぞれ指定された4店舗を“はしご”し、飲み物片手に職場仲間や友人などと会話を弾ませ、初冬の夜のイベントを楽しみました。

電子メディア使用の影響について学ぶ　11/21

本別町ＰＴＡ連合会（今野雅徳会長）による第57回本別町ＰＴＡ研究大会が11月21日、町体育館で開催されました。研究大会では、旭川赤十字病院小児科第一小児科諏訪清隆部長が「電子メディアの上手な使い方」と題して講演しました。諏訪部長は、スマホなどの電子メディアを長時間使用することにより視力低下や斜視など目への影響のほか、睡眠不足による成長ホルモン分泌への影響について指摘し、「子供の発達や成長、健康状態へ悪影響を及ぼさないためにも、見守り、コントロールすることが大切」と説明しました。大会に参加した町内小中学校の保護者など約120人は、電子メディアが子供たちに与える影響について理解を深めました。

元気いっぱいに運動会　11/25

子育て支援センターほんべつによる「わくわくデー」ちびっ子運動会が11月25日、健康管理センターで開催されました。参加した32組65人の親子は、かけっこやチーム対抗さかな釣りゲーム、おやつ取り競争リレーの競技に挑戦。子供たちは、ハイハイやよちよち歩きでゴールにいるお母さん目指して懸命に歩いたり、磁石のついた魚のイラストをたくさん釣り上げるなど、元気いっぱいに運動会を楽しみました。

本別の恵に感謝　11/26

“本別を味わおう”と題した「ふるさと給食」が11月26日、町内全小・中学校と本別高校で提供されました。この取り組みは、町内で生産されている農産物や加工されている野菜、豆などの食材を食べて知ってもらい、食の大切さについて理解を深めることを目的に実施されています。この日のメニューは、本別産の肉や野菜、豆などを使った元気君ミートローフ、カラフル野菜のスープカレー、ひまわり迷路で収穫したひまわりの種を練り込んだひまわりパン、大豆コーヒーゼリーの４品で、本別中央小学校（式見祝賀校長）の４年生22人では「親子ふれあい給食」として、保護者や食材の生産者らとともに本別町の恵に感謝しながら給食を味わいました。

北海道消防表彰の受賞を報告　11/29

北海道消防表彰を受けた本別消防団の伊藤英昭団長ら３人が11月29日、役場を訪れ、高橋正夫町長に受賞を報告しました。この表彰は、地域防災に顕著な功績が認められ同消防団に表彰状と表彰旗が贈られたものです。受賞報告で伊藤団長は、「自分たちではなく、先輩から引き継がれたもの。これからもこの伝統を大事にしていきたい。」と今後の活動への抱負を述べました。

少年少女剣士が熱戦　12/1

本別剣道連盟（鈴木清志会長）主催による第27回十勝東北部少年剣道本別大会が12月１日、町体育館で開催されました。大会には、十勝管内５町の幼児から中学生までの男女約120人30チームが出場。試合は、小学生、中学生に分かれた個人戦と団体戦で行われ、選手らは、保護者等の応援を背に気合の入った掛け声で、鋭い攻めから相手を打ち込み、優勝目指して熱戦を繰り広げました。

※成績は次の通り（本別町分　敬称略）

【個人】小学生中学年男子の部

準優勝　佐藤雅孝

【団体】小学生中学年男子の部

本別剣道少年団　第３位

まちの情報を広報電算担当へお寄せください　☎22－8121

お詫び
（公用車の車検切れについて）

この度、本別公園一帯の維持管理のために使用する軽貨物自動車１台について、令和元年９月28日に車検満了日となっていましたが、車検整備を失念し、令和元年11月24日まで使用していたことが判明いたしました。

この車両につきましては、車検切れが判明した令和元年11月28日に車検整備を自動車整備工場に依頼し、令和元年12月４日に車両整備を終え、車検取得が完了したところです。

町民の皆さまの町政に対する信頼を損ねることとなり、深くお詫び申し上げます。

今後、運行日誌と車内に車検満了日を表示し、運行前に確認するなどして再発防止を徹底してまいります。

銀河ホットライン

ー足寄町・陸別町からー

足寄町

第9回 ウッドキャンドルナイト

足寄町の森林資源であるカラマツ材を有効活用したウッドキャンドルやアイスキャンドルの灯りが幻想的に会場を照らす、足寄の冬を楽しむイベントです。

□とき　**1月25日(土) 午後4時～**

□ところ　あしょろ銀河ホール21前

□内　容
ウッドキャンドルによるマシュマロ焼き体験、餅つき隊によるお餅の無料提供、軽音楽コンサート、こども滑り台　ほか

※内容は変更になる場合があります

□問い合わせ　あしょろ観光協会
☎25-6131

陸別町

第39回 しばれフェスティバル

今年のしばれフェスティバルも盛りだくさんの企画で皆さんをお待ちしております。ぜひご来場ください。

□とき　令和2年 **2月1日(土) 2日(日)**

□ところ　陸別町イベント広場
（陸別町宇遠別）

□内　容
姉妹共演?モノマネステージショー（アーティストmi-sono、倖田未來）、ものまねステージ（まっちゃま）、ご当地アイドルライブショー（フルーティー）、キャラクターショー（騎士竜戦隊リュウソウジャー）、しばれ花火、大抽選会　ほか

□問い合わせ
陸別町役場産業振興課
☎27-2141 内線135
※しばれフェスティバル実行委員会ホームページ（「しばれフェス」で検索）でご確認ください

みんなの健康 425

寒い冬にも脱水？

脱水とは、身体に必要な水分と排泄される水分のバランスが崩れて、体液の不足した状態になった時に起こります。多くの人は、夏の季節、気温の高い日や陽ざしの強い時に、脱水にならないように予防策として、スポーツドリンクなどの水分を摂って、スポーツや作業をされていることと思いますが、気候の寒い冬にも脱水は起こります。

予防により脱水とならないことが大事ではありますが、脱水症状にいち早く気付いて対処していくことも重要となります。症状はさまざまありますが、頭痛、全身の倦怠感、ふらつき、体温上昇、頻脈、意識障害、口の渇き、血圧低下、食欲不振、尿量減少、濃縮尿、さらに脱水が進むと筋肉のけいれんや血流障害による手足の冷感などが発生する場合があります。

老人ホームの利用者を始め、高齢になってくると体調不良の原因が、実は脱水ということが多くあります。加齢に伴い、水分の貯蔵庫となる筋肉の減少や、脳の機能低下によって水分の摂取量が減る傾向にあり、食事もたくさん食べられなくなってきます。普段関わっている家族や介護職員等が「ぼんやりしている」「元気がない」など、何かいつもと違う小さな変化に敏感となり、脱水予防に配慮することが大切です。

高齢の人に限らず、体調を崩して吐いたり、下痢や発熱した時は、身体の水分が減少し、電解質も失われるため、水分補給が非常に大事となります。その場合、一度にたくさんの水分を摂るより、少しずつ数回に分けて補給していく方が身体への吸収が良いとされています。ただし、高血圧症、心臓病、腎臓病など水分制限のある人は、主治医の指示に従っていただきたいと思います。

夏も冬も、しっかり水分を摂って、いつまでも元気な毎日を過ごすことができるよう皆さんがんばりましょう。

本別町養護老人ホーム
准看護師
加 納 ゆかり

未来に輝く子どもたち

本別町の未来を担うかわいい星たちです。
お父さん、お母さんのたくさんの愛に包まれてすくすく元気に育ってね！

弥生町
薩田 結菜(ゆな)ちゃん
（千亜紀ママ）

柏木町
佐藤 和(なごみ)くん
（順子ママ）

※写真は本人に了解を得た上で掲載しています

本中生徒が税の作文で受賞

12/11

令和元年度の税を考える週間（11月11日から17日）に合わせて行われた「税についての作文」（全国納税貯蓄組合連合会、国税庁共催）で受賞した本別中学校（寺島康博校長）の生徒２人の表彰式が12月11日、同校で行われました。今年度この作文には、道内中学校の231校、7,508編、十勝池田税務署管内では、７校、200編の応募があり、同校では、北海道知事賞に鈴木健斗さん（３年）、十勝池田間税会会長賞に大泉瑚凛さん（同）が受賞しました。表彰式では、十勝総合振興局田中浩司税務課長らから２人へ賞状と記念品が手渡されました。

まちの情報を広報電算担当へお寄せください ☎22-8121

ご寄付ありがとうございます

令和元年11月16日から12月15日

次の通りご寄付をいただきました。
紙上にて厚くお礼申し上げます。（敬称略）

★図書館図書購入費指定
金 200,000円 ……………… 南２丁目　岡 崎　勉

★仙美里へき地保育所指定
ラキューブロック ４箱
……………………… 足寄町　斉藤井出建設親睦会

個性あるふるさとづくり寄付条例による寄付
計 金 22,585,000円 ……………………… 1,512人

戸籍のまど

11月後半から12月前半の届出分

お誕生

宍戸那優（なゆ）ちゃん	謙介さん 旬子さん	12/1	弥生町
荒木寛太（かんた）くん	卓さん 詩織さん	12/4	南1丁目

ご結婚

藤村剛功さん	釧路市
大原知子さん	柏木町
石井暢さん	柳町
吾妻久美子さん	柏木町

おくやみ

須谷カツ子さん	89歳	11/22	仙美里元町
林千代子さん	98歳	12/2	北4丁目
薩田せつ子さん	66歳	12/3	弥生町
中島リツさん	89歳	12/4	南2丁目
加藤良一さん	95歳	12/5	新生
佐野捷雄さん	76歳	12/14	勇足西1
内津喜二三さん	88歳	12/15	北3丁目

本のある暮らし 226

豆のまちだから読んでみよう
「豆ちしき」発信中！

皆さん、マメに達者に、新年をお迎えでしょうか。

年末年始は豆料理を食べる機会が増えますが、豆を知るきっかけにもなるといいですね。豆のまち本別町の図書館にあるバラエティ豊富な「豆の本」を、ぜひ読んでみてください（２月末まで展示します）。

「毎日お豆を食べましょう」
本別在住の林敏子さんによる手軽な豆料理のレシピがたくさん！

「おとうふやさん」
昭和の頃、本別のまちなかにもあった豆腐屋さん。懐かしい朝の風景がよみがえります。

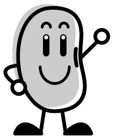
「豆はとってもすぐれもの」
豆の秘密が分かる！児童書ですが、大人が読んでもためになる一冊。

クイズ「豆ちしき」

Q１ 日本で栽培されている豆の中で、最も多く作られている種類は？
①エンドウ　②アズキ　③ダイズ

Q２ マメ科の花はどれ？
①スイートピー　②コスモス　③マリーゴールド

⇒答えは図書館に掲示します



お問い合わせ先
本別町図書館
（愛称：ぶっくる～む）
本別町北2丁目 ☎・FAX 22-5112

わたしたちのまち

	前月比
人口	6,913人（−15）
男	3,399人（−5）
女	3,514人（−10）
世帯数	3,627戸（−10）

〔11月末日住民基本台帳〕

■発行　本別町／〒089-3392 北海道中川郡本別町北２丁目４番地１　■ホームページ　http://www.town.honbetsu.hokkaido.jp/
■編集　企画振興課広報電算担当　TEL 0156-22-8121　FAX 0156-22-3237　■印刷　本別印刷株式会社

資源を大切に――
広報ほんべつは、道産間伐材を使用しています。